

2004年8月16日淀川水系流域委員会 様
宇治・世界遺産を守る会代表 須田 稔

8月16日、国土交通省近畿地方整備局へ下記のとおり、「景観をとりもどし、子どもたちが遊べるような川を取り戻したいというのが私たちの願い—淀川水系河川整備計画基礎案および調査報告(中間報告)に対する質問及び意見—」を提出しました。淀川水系流域委員会各位におかれましてもご一読下さい。

記

2004年8月16日国土交通省近畿地方整備局 様
宇治・世界遺産を守る会 代表 須田 稔

景観をとりもどし、子どもたちが遊べるような川を取り戻したいというのが私たちの願い—淀川水系河川整備計画基礎案および調査報告(中間報告)に対する質問および意見—

1、「淀川水系河川整備計画基礎案」の天ヶ瀬ダム再開発に関する内容は、流域委員会の「提言」や「意見書」、この間の私たち地元住民の意見を軽視しているようで非常に遺憾に思います。河川管理者は流域委員会の「提言」や「意見書」、また私たち地元住民の意見を尊重して検討なされるよう、改めて強く要請します。

基礎案は、「5、具体的な整備内容」の「5. 3. 1洪水 (2) 浸水被害の軽減
2) 琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減 ①宇治川」において「琵琶湖後期放流に対応するために、天ヶ瀬ダム再開発計画の調査検討を行う。その結果及び河川整備の進捗状況を踏まえ、『塔の島』地区の河道掘削時期を検討する」としています。その内容は、「掘削時期を検討する」という基礎原案から一字一句も変えずに、塔の川地区の河道掘削を既定のこととし、時期を検討するというものであって、流域委員会の意見書を全く踏まえていません。意見書は『『塔の島地区の河道掘削』は、この地区の歴史的景観を保全するためにできるだけ少なくするべきであり、できれば避けるのが望ましい。堤防補強などにより、河道を掘削せずに流下能力を増大する可能性についての検討が望まれる」としており、淀川部会の意見は「宇治川塔の島地区の流下能力増大については、歴史的価値及び景観保全などの観点から、現状保全を前提として検討が必要である」としているのです。つまり歴史的景観を保全するために掘削を極力少なくする又は現状保全を前提とした検討を求めているのです。

宇治川塔の川地区の河道掘削は、河道を平均1.1m掘削して毎秒1,500トンの流下能力をもたせるようにするもので、河道掘削範囲は、亀石上流部から宇治橋、JR鉄橋下流部までの広範囲にわたり、宇治川の景観の中でも心臓部を掘削するので

あり、塔の島地区の自然景観、歴史的景観が根幹から破壊されるのであって、私たちは絶対反対です。

宇治市においては「宇治川を開発の名を借りた破壊からいかに防衛し、その両岸に生み出された文化をいかに活用していくか、それを大前提としてはじめて未来都市を論じることができる。」（「宇治市史4」）のであり、2003年3月に宇治市都市景観審議会（広原盛明会長）は「世界遺産の平等院および宇治上神社とその間を流れる宇治川流域一体の景観をとくに宇治市民のシンボルとして位置づけます。このシンボル景観を背景も含めて保全し、後世に引き継いでゆくことを、市民ならびに事業者および公共機関の務めとします」と答申し、これを受けて宇治市は、2003年3月、宇治市都市景観形成基本計画で平等院・宇治上神社とその間を流れる宇治川流域一体の景観を、宇治市民のシンボル景観と位置付けているのです。

河川管理者におかれては、宇治川塔の島地区の河道掘削は、流域委員会の意見書、私たち地元住民の意見、そして宇治市における宇治川の位置づけを踏まえて、その歴史的景観を保全するために現状保全を前提として検討されることを、私たちは強く要請するものです。

なお、基礎案では、「5. 3. 1洪水（2）浸水被害の軽減 2）琵琶湖沿岸の浸水被害の軽減 ②瀬田川」で「景勝地区である瀬田川下流（鹿跳溪谷）の流下能力の増大方法を環境、景観の両観点から検討する」としており、「鹿跳溪谷の自然環境を保全するために当該区間を迂回するトンネル等を検討する」と説明されています。したがって鹿跳溪谷の自然景観を保全するために迂回トンネルを検討されるのであれば、同様に景勝の地である宇治川塔の島地区の歴史的な自然景観を保全するために、天ヶ瀬ダムから宇治川宇治橋・JR鉄橋下流への迂回トンネルを検討されてしかるべきと考えます。

2、調査検討について

①「各ダム計画に関する調査検討（中間報告）」の「天ヶ瀬ダム再開発計画に関する調査検討（中間報告）平成16年6月22日」が出されました。報告書は「琵琶湖沿岸の浸水被害軽減対策の一つとして、宇治川の塔の島地区の河道掘削を行うこととしているが、景観に著しい変化をもたらすのではないかと、この意見があったため、河道掘削の影響について整理した」として「宇治川塔の島地区の河道掘削と景観」で宇治橋から上流を望むフォトモンタージュ写真を掲示し、「亀石保全対策については『宇治川塔の島地区河川整備検討委員会』において検討された対策案を踏まえ、さらに具体的に検討します」と記しています。

この認識そのものが問題なのです。私たちがこの間指摘してきたのは、景観破壊はこれからおこるのではなくて、この「宇治川塔の島地区河川整備検討委員会」において検討された結果にもとづいて、すでに天ヶ瀬ダム再開発・1, 500トン放

流の関連工事（塔の川の締切堤建設、あるいは天ヶ瀬吊り橋からの導水管の敷設、亀石周辺の護岸工事名目の宇治川の埋め立て工事、そして宇治橋左岸の舟の係留場の埋め立て工事）が行われ、すでに宇治川の景観は破壊されてきているということであって、塔の島地区の河道掘削は宇治川の心臓部をえぐる最後の工事であるということです。また掲載されているフォトモンタージュは私たちが調査検討を要請したものとは程遠いものです。私たちが要請したのは、掘削地域全体を網羅するような、河道掘削がもたらす高水位、平常水位、低水位における各地点における各方面からの予測写真です。

また現在の塔の島地区の最大流下能力は毎秒1100トンと説明されていますが、毎秒900トンから1,500トンまでの100トン単位の水位断面図なども要請していましたがいまだにいただいております。

- ②琵琶湖沿岸の浸水被害の実態の解明とそれにもとづく原因に対して効果的な対策を検討するべきです。天ヶ瀬ダム再開発・1,500トン放流は、琵琶湖沿岸の浸水被害を軽減することを目的とされていますが、私たちは対話討論集会でも調査項目について意見を述べてきました。それは琵琶湖の浸水被害の軽減と一言で言われるが、浸水被害の実態や原因をきちっと解明する必要があり、例えば浸水被害についても家屋浸水、畑地の浸水、水田の浸水がどういう状況にあるのか、何が原因なのか、各土地利用ごとに各地域ごとにきちっと解明して対策を打つことを繰返し要望してきましたが、残念ながらそういう調査が行われようとしていません。河川管理者は、1,500トン放流で24日間の浸水が12日間に短縮される効果があるといいますが、稲や野菜はダメになってしまうのであって、そのようなことで稲や野菜の被害が解消されるとは思われません。一つ一つについて具体的な分析検討と対策が必要なのであって、河川管理者として琵琶湖沿岸の浸水被害の実態、すなわち解消すべき浸水被害の実態の解析をやっていただきたい。何が原因でどこでどのような被害が生じているのか、そしてそれに対する有効な対策を検討していただきたい。

- 3、天ヶ瀬ダム再開発・1500トン放流に関して行われた宇治川河川工事についてどのように評価されているのか、明らかにしていただきたい。従来型の利水目的のダムの建設、治水名目の河川のコンクリート化・直線化などの河川整備計画が河川の自然環境に大きな変化を与えてきた反省の上にならって、治水・利水・環境の総合的な河川制度の整備（河川環境の整備と保全、地域の意見を反映した河川整備の計画制度の導入）の改正河川法があり、その具体化の一つとしての淀川水系流域委員会を設置してこの間の検討が行われてきたと考えます。

そこで天ヶ瀬ダム再開発・1,500トン放流に関わって行われた①塔の島、橋島の東半分の掘削、②塔の川締切堤設置、③天ヶ瀬吊り橋からの導水管敷設、④亀石周

辺の護岸工事という名目の宇治川埋め立て工事、④宇治橋左岸上流の舟の係留場宇治川埋め立て工事 について現在どのような評価をおこなっているのか明らかにしていただきたい。

私たちは、これらの工事によって宇治川の景観が大きく損なわれたと考えており、同時に塔の島地区周辺が「危険！立ち入るな」という警告看板がいっぱいあって、子供たちが水に親しむという状況から程遠い状態になっていることを残念に思います。

以上